

がある。

「曲水」(7-7)。小品「異端漫筆」。

歯痛に悩む。厚一の歯痛は大正7年1月31日青木幸太郎宛ハガキ文面にもあり、又小品「昨日の人々」の「私」も歯痛の態で、健康な歯ではなかった。

「曲水」(7-8)、句帖に4句。短文「行人坂の下から」。

「誰れ彼れ曰」に自己凝視の文字を記す。

9月・「曲水」(7-9)、季題寸言2題。

10月19日より翌月にかけて水巴高知へ旅行。不在中の編集用務いっさいを代行。

「曲水」(7-10)。消息欄に「長頸子君は今月或る仕事の為に忙しい」とある。(又、7-11同欄にも「長頸子君童謡集脱稿、近く出版になる」とあり、いずれも「子供達の歌」シリーズの事と思われる)

11月・「曲水」(7-12)、13日付編集後記。

初句に1通と29日付1通、共に中山晋平宛書信。

(中山卯郎の所に右2通と童謡の詩稿14編がひとまとめになって所蔵されている。(一部巻頭写真)うち1通は日付が不明だが、文面から推してこの月初句に書かれたもの。書信は共に歌詞原稿を同封して送られているが、14編が初句のものと29日付の両方にどう分けられるか、一部を除いて不明であり、又この2通に同封されたものばかりではないとも考えられるが、書体その他も考慮の上仕分けし作品の部に置いた。ともあれ既に作られてあったものが混じるとしても、未発表の14編が一度にこの月に見られるわけで、12月の項に記す13編とも重複しておらず、合せると27編にもなり、さかんな創作意欲が観取される。

なお、初句の方の文面にある「夜話の後」詩稿は未見。

12月・吟社師走例会、於上野花山亭。1句。

「曲水」(7-12)。季題寸言の「選後に」、短文「行人坂の下から」がある。

この月、はじめての童謡楽譜である「子供達の歌」シリーズの第1集「赤い櫛」が18日付で、下目黒468番地白眉出版社から刊行された。所収の作品は「赤い櫛」(作曲・小田島)、「後の鬼が島」(作曲・外山)、「からくり」(作曲・中山)、「秋の夜」(作曲・小田島)、「郷愁」(作曲・英・ビショップ)。楽譜奥付に、作歌者海野厚、作曲者外山国彦、小田島樹人、中山晋平と記され、装丁の諏訪かげよしによる表紙画は「赤い櫛」の歌詞のイメージと思われるかわいらしい感じのものである。(巻頭カラー写真参照)

又巻末にかかげられた連名の「自分達の言葉」には、この童謡集シリーズ発行に寄せる4人の作家の心懐が托されている。

又、この月には他の童謡2編(「ひとりごと」「小鳥の巣」)を「曲水」(7-12)に載せている。現存資料によれば、童謡の発表は大正8年5月「赤い鳥」(2-5)以来全くなかったのが、ここへ来て一挙に7編の発表を見、そして翌年にはシリーズの5編、更に翌年2月中山晋平単独の楽譜に1編、合計13編の発表が集中しているのは、それぞれの作品が、よし完成された形ではないにしても、過去の年月の間に書き溜められていたことを示すものだろう。

なお「からくり」の歌詞は、前記シリーズ第1集では1節だけであり、第2節が加えられたのは楽譜発行後のことである。

「中山晋平作曲目録・年譜」(中山卯郎編著 豆ノ樹社発行)